

令和6年2月13日
株式会社シーエス・ワンテン
ブロードキャスト・サテライト・ディズニー株式会社

ディズニージュニア 番組審議会議事録

- ・日時 令和5年12月5日(火)16:00～
- ・開催場所 東京都港区虎ノ門 1-23-1
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社 27階会議室
- ・参加者 審議委員総数 9名
出席委員数 8名
書面参加委員数 1名

(出席委員名)

- 委員長 村川 幹夫 ((株)オリコン ME WEB 編集本部 執行役員/編集長)
- 委員 名越 康文 (精神科医・評論家)
- 委員 清水 優子 (ナレーター・キャスター・(有)タイムリーオフィス代表)
- 委員 堀越 礼子 ((株)朝日新聞社 取締役)
- 委員 太田 美千子 ((株)講談社 第三事業本部局長)
- 委員 パトリック・ハーラン (タレント・大学講師)
- 委員 須貝 駿貴 (学術博士・QuizKnock)
- 委員 吉田 千佳 (ユーチューバー)

(書面参加委員名)

- 副委員長 藤田 興彦 (学校法人和田実学園 評議員)

(衛星基幹放送事業者：株式会社シーエス・ワンテン)

- 福田 泉 (代表取締役社長)
- 中口 裕丈 (編成局長)

(番組供給事業者：ブロードキャスト・サテライト・ディズニー株式会社)

- 小林 信一 (代表取締役社長)
- 小峰 利憲 (取締役)
- 伊藤 由起 (編成 ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社)
- 白川 英晃 (セールス ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社)
- 奥野 祥行 (マーケティング ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社)

竹内 文吾（編成 マネージャー）
待鳥 雅之（編成 アシスタント・マネージャー）
山本 綾子（編成 スペシャリスト）
戸泉 真由子（編成 ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社）
田内 恵美子（編成 ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社）

- ・ 議題
 - （1）ディズニージュニアの番組編成について
 - （2）審議番組『ファイヤーバディ』について
 - （3）番組基準の変更について

- ・ 議事内容

（以下、*：委員からの意見・質問、→：ディズニーの説明・回答）

- （1）ディズニージュニアの番組編成について

→12月の編成ハイライトは下記の通り：

- ・ 3日(日)と25日(月)は、特別編成「ディズニージュニア すてきなクリスマス」。
初回の3日(日)は、人気テレビシリーズの新エピソード7話分を一挙放送し、最後の部分でクリスマス関連の映画を放送。
- ・ 17日(日)は、特別編成「パップストラクション スタートスペシャル」。
日本初登場の『パップストラクション』を一挙に4話、ディズニージュニアで初放送。
- ・ 24日(日)は、特別編成「ライム・タイム・タウン スタートスペシャル」。
初放送となるアニメーション『ライム・タイム・タウン』の放送を記念して、新エピソード4話分を放送。

→映画枠「ディズニージュニア キラキラムービー」では、『ミッキーのクリスマスの贈りもの』と『くまのプーさん みんなのクリスマス』を放送。

- （2）審議番組『ファイヤーバディ』について

- ・ 放送概要：

令和5年4月9日(日)に、日本初回放送。

約24分×全25話（第1シーズン）。

- ・ 番組内容：

ボー、ジェイデン、バイオレットの3人は、おしゃべりする車たちと一緒に子ども救助隊「ファイヤーバディ」を結成！街の安全を守るため、木に挟まった子ども車を助けたり、迷子の子犬を探したり、困っている人がいたらすぐに駆けつける。たまに失敗もするけれど

ど、そんな時はチームで力を合わせて乗り越えていく。チームワークと仲間を助けることの大切さを教えてくれるアニメーション・シリーズ。

→ストーリーとしては、車とお話ができる世界という設定で、人とヒーローである車たちが相棒になって、安全を守るために活躍する、という内容。

→失敗をしても、いろんな角度から再度チャレンジしてあきらめない姿勢や、チームワークと仲間を助けることの大切さを教えてくれるところもポイント。

→様々な人種のカルチャーやLGBTQという多様性について学ぶこともできる。

→ポップな曲やラップの歌など、いろんなジャンルの音楽に触れることができるという点も本作の魅力。

*特に男の子は乗り物が好きだと思う。「仲間」がテーマになっているが、仲間って何歳くらいから出来るのだろうかと思って調べてみたら、6歳向けくらいから「仲間」と書いてあるものがあり、そうなのかと思いながらも自分の子供の時のことを考えた時に、仲間意識って、そんな早くからあったかな…と思った。

*昭和の発達心理学では、小学校3年生～4年生から仲間を意識する。もしかすると、今よりもっと進んでいるかもしれない。仲間のように見えても、一緒の場所で遊んでいるだけと習った。

*5歳の子供でも仲間感覚はあるようだ。まずは仲の良いクラスメイトから始まり、何度も遊んだりすることによって、喧嘩することもあるが、ちょっとした思いやりや、何かあげたい、助けてあげてを学ぶ。ただのクラスメイトではなく、仲間意識が芽生えているのではないかと思う。

*低年齢化している印象を受ける。情操教育からではなく、こういったテレビ番組から学ぶという部分は、かなり浸透していると感じる。

*基本的に良かった。働く車はみんな好き。少し『カーズ』などに通じる重なるものがある。未就学児向けの題材としてはぴったり。

*アクションがスムーズなので、表情が豊かで、楽しい。

*フィリピンの言葉がいろいろ出てきて、多様性に配慮していることを意識している点が伝わる。

*みんなで協力して任務遂行する＝仲間、だと思う。音楽に「仲間の意見は大切」という歌詞があり、仲間は意識としてあるが、仲間というのかな？とも感じた。多分、友達という感じで見えていて、歌詞としての翻訳が少しひっかかる。「みんなのお手柄」など歌詞に相当メッセージ性があるので、翻訳と台詞のリンクが大事と思った。

*乗り物に人格を入れ込むキャラクターは、以前から浸透していて、『カーズ』登場以降も多様性が浸透している。

*動きがコミカル、スピーディ、キレがよく非常に面白い。給油口の部分が手というのは、今までにあまりなく、表現として面白い。

- *ターゲット年齢的には、まだ理論的思考が全くできない子供が多いので、ディズニージュニア向けの番組については、刷り込み効果を持つコンテンツが本当に大丈夫かどうかはしっかりチェックしないといけないという立場で見たが、真面目に見ても楽しかった。
- *フィリピンの言葉や歌詞にしても、自然にダイバーシティに触れ合える、自然に仲間と協力する、行動する前に計画を立てるなど、ぜひ子供に覚えてほしいと思う。お父さんの火事現場に行けないのは当たり前だけど、子供同士が公園で同じように救助活動や人助けは出来るというメッセージ性は、素晴らしいと思った。アメリカで制作された作品にも拘わらず、アドバイスをありがとう、聞いてくれてありがとう、と挨拶がしっかり出来る点が日本ぽいと感じた。全体的に素晴らしい。
- *ひとつ気になった点は、翻訳の難しさ。消防車のフラッシュが、「飛ばすぞー！ヘルメットを捕まえろ、ヘルメットを押さえろ！」という台詞があるが、実際には乗っている人はヘルメットを押さえていない。これは英語の慣用表現を直訳しているからだ。慣用表現の「Hold on to your hats」とは、「帽子が飛ぶから気を付けて、飛ばすぞー！」という意味なので、帽子をかぶっていないなくても使う。「Hat」がヘルメットなので英語的には面白いが、直訳すると「ヘルメットを押さえろ」と言っているのに、何で押さえていないのだろう？となってしまふ。
- *特に良かった点は、お父さんの現場に行きたいけど行ってはいけないというシーンで、理由を細かく説明するのではなく、とにかくダメなところには行ってはいけないと、はっきりと示されていたこと。3~5歳の頃に、理由は分からなくても最初からずっと言われているべきこと。「なぜ？」ではなく、そういうものとして与えられていることは結構大事だと思う。これを見ていたら、腹の底からそういうものとして染みつくようになると思うので、良いことだと思う。「なんでダメなの？」は17歳から考えればいい。3歳や小学生の間は、まずはそういう場所に行ってはならないことを知るのが先である。
- *仲間という言葉は格好いい。お友達ではなく、仲間と協力しろ、というのも格好いい。戦隊ヒーローものでもお友達と一緒にみんなで平和に生きようではなく、仲間と一緒に宇宙を助けるぞ、と色んな言葉のニュアンスが少しだけ変わると思う。格好いいものへの憧れが強い子、格好良さに憧れる子にとっては、より納得出来る。「お友達」と言われた方が納得出来る子には、その子にあった別の番組があると思う。この番組は、「仲間」が刺さる子供へのテレビ番組としてある。
- *最近の戦隊ものは、変身する側だけでなく巨大ロボット側も喋るので似ているなど思った。
- *どうやって、こういう出来のいい作品を探して辿り着いてもらえるだろうか。子供はどうしてもYouTubeを見てしまうが、教育上よくないのではないか。しっかり作りこまれた番組を見せたいと大人は思う。ダイバーシティに配慮して作っているような番組に、どう辿りついてもらうのが課題。みんなに見てほしいいい番組だからこそ考えたい。せっかくハイクオリティの作品を作ったのに、導線が足りないのではないか。

- *この作品においてはプランを立てる話が多かった。その通りいくかどうかは別として、朝から今日のプランを立て、助ける時にもプランが必要だ！などと、計画を立てることがテーマに出てくる。年齢にもよるかもしれないが、番組を見て子供自身にもリンクしてくれると嬉しいと思う。
- *少し先のことを考えるシーンも多かった。トランポリンは弾みすぎるから…と最初から気づいたり、橋が当たりそうになってクレーンをどうするか…という話があったりするので、ちょっとずつそういう意識を持ってくれたらよいと思う。ヒーロー意識がアメリカらしい。
- *フィリピンのお菓子「エンサイマダ」が出てきて、一体なんだろうと思って調べたりと、大人も勉強になった。
- *子供たちにどうやって番組を届けるかは、親に知ってもらうことが大事。親が番組を見て子供に見せたいと思うこと、誘導することはできる。YouTube でどんなことに興味があるのか、親がフィードするばかりでなく、子供たちがどんなことに反応するのか知ること面白い。
- *とても良い番組。内容的にはお父さんがプロフェッショナルで、そんな大人に憧れる子供というメッセージもわかりやすい、ダイバーシティ・プランなど学びの要素も上手く展開していて、親が安心して見せられる番組だなと思う。
- *働く車は鉄板人気。特に男子には。擬人化された表情のある・顔のある乗り物、アニメーションの世界は脈々と続いている。ファイヤーバディを見たとき、『カーズ』を思い出した。目や口があって表情が豊かというのは、『カーズ』が作った流れの中できたのだなと感じたが、表現として進化していて、より子供たちが、友達と思えるより人間らしい感じになっている。『カーズ』は車の世界だったが、これは子供と車が友達になって共生しているという意味でも進化系と思った。
- *消防士の人気も鉄板。色々な強い要素を掛け合わせつつ、今どきに纏めた点が尊敬に値する。車はおもちゃの世界でも人気。タッチポイントとしては、番組の情報に加えて、グッズを通して知ることもあるので、色々展開して欲しい番組と思った。
- *ある年齢で与えていいものと与えていけないもの、子供にいつ何を与えるかは、ある程度考えないといけない。
- *『ファイヤーバディ』は健全な番組だと思う。今の日本は危険、危ないものは全部だめ、怪我するといけないので公園を閉鎖する等、過剰だ。例えば、子供が「僕も一緒に消火活動する！」というような台詞自体が、地上波ではタブーになっている気がする。また、子供たちが鉄格子もない屋上から風船を持って犬を救う場面では地上波では放送できないと思う。だが、それでは子供たちは冒険が出来ない。ギリギリのところで生きているからこそ、命の大切さがわかる。そういう意味では希少価値のある番組である。
- *車が動く姿、表情の描き方素晴らしく、大事なことを歌に合わせて伝えてくれている点が子供たちに伝わりやすい。問題が起きたとしても、報告して謝って反省する姿も良いお手

本になる。

- *動きもよくコミカルで楽しいなと思うが、『ファイヤーバディ』と銘打っているのであれば、火災現場における有事の際に、子供たちなりの活躍が欲しい。色々な困難をしっかりと解決する場面はあるが、例えば現場周辺での人命活動や子供たちならではのアイデアをもとに、どうアシストするのか…があっても良いのではないか。過度な規制や制約により、本来の消防車の役割の部分に制約すべきではないと感じた。
- *避難訓練や消火栓の使い方はやってほしいなと思った。ただ、小さい子が火災現場を見て手伝えると思うようになるのは危ないので、消火器の場所を確認するような呼びかけは良いかもしれない。
- *日本の場合、車を擬人化、または働く車で消防車がピックアップされることが多いが、本作では消防士に憧れる子供を描いていて、子供対象の番組で消防士という人に焦点を当てた点は珍しいと思う。

(3) 番組基準の変更について

「民放連 放送基準」が令和6年4月1日付にて一部改正されるのに伴い、株式会社シーエス・ワンテン 番組基準を変更することが諮問され、「妥当である」との答申があった。

- **審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日：**

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和5年12月以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、さらなる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。

- **審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日：**

令和6年2月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上

